2024 吃音指導講座

吃音のある方が生きやすくなるための発語指導の実際

― 発語指導のための指導者のスキルアップ実技研修 その４ ―

● 基本スタンス ●

○　『吃音は、本質的に治るのか？』との哲学的命題は、学問的には重要な課題でしょう。しかし、今、目の前にいる相談者にとっての命題は、“生きやすさ”だと考えてみませんか。

○　“楽な発語での言語活動の経験”は、吃音で悩む方にとっては、“生きやすさ”を支える一つの土台となり得る経験だと思います。

基本スタンス

● 発語指導に対する基本スタンス〔抜粋〕 ●

○　実は、「どのような吃り方や随伴症状があるか？」は、それ程大きな問題ではないのです。臨床上大切なのは、「どのように楽な声で発語することがあるか？」を把握することなのです。

○　従って、“共調発語指導法”では、それぞれの個人が『どのように楽に声を出しているか』の把握に最大の注意と関心を向け、吃音検査や会話での発語の様子を注意深く観察します。

○　小学生の場合、学校での音読が、今までよりほんの少しでも楽にできると、それだけでも物凄い自信になり、学級での自発的な発言が多くなっていく子もいます。

　ですから、吃音のある子に対する主な指導方針の一つに『音読指導』を位置づけ実行することは、豊かな学校生活をもたらす大切な指導と考えています。

◎ 2024 吃音指導講座の内容〔指導事例の紹介は、全て動画の視聴で〕

① 共調発語指導法での非流暢性に影響を与える指導技法の紹介と解説
② 茂君の「ジャックと豆の木」の音読での『楽な発語』の把握【2022≪後期≫講座から＝再度】
③ 「朝の会の進行を自力でしたい！」と来室した中学２年生次元君(仮名)への指導
④ 発語指導のための指導者のスキルアップ（**実技研修 その４**）
⑤ ことばを使ったゲームを通しての発語指導を体験してみよう！
⑥ 「絵カード合わせゲーム」「お話作りゲーム」等、様々な指導の紹介と実施上の留意事項の解説

山形言語臨床教育研究会　代表 梅村　正俊

主　　催；山形言語臨床教育研究会・山形言語臨床教育相談室
開催期日：2024(R6)年９月14日(土)～15日(日)
場　　所：山形市市民活動支援センター（霞城セントラル23階：高度情報会議室）
講　　師：梅村 正俊（山形言語臨床教育相談室：言語聴覚士）
【 講座参加費 】基本参加費：7，０００円（当日徴収）　募集定員：25名
【 参加の条件 】全日程の参加が可能
【 参加申込の方法 】必要事項の全てを楷書で記載し、ＦＡＸでお申し込み下さい
【 参加申込の締切 】9月6日(金) … 定員になり次第締め切ります
【 問い合せ先 】山形言語臨床教育相談室　※ お問い合わせは、全てＦＡＸでお願い致します。

ぷろふぃー
演者プロフィール

990-2483 山形市上町 5-11-24　FAX専用：023-646-6492

2024 吃音指導講座　★ 講座の基本的な進め方 と 日程

① 演習形式での進行が基本
② 質問がある場合は、講話の途中であっても、**話をさえぎって**でも質問して下さい！

お断り：参加者の更なるご要望により、当日の内容・日程が変更されることがあります。
できるだけご要望にはお応えしたいと考えています。予め、ご了解ください。

9月14日（土）　※ 登場するお子さんの名前は、全て仮名です

受 付	9時３０分 ～ 10時頃

10時 ～ 11時頃30頃 (途中10分程度休憩)

■ 共調発語指導について

● まずは、実際の指導を見てみましょう（視聴とその解説）

第３回日本吃音・流暢性障害学会発表動画から

AD+St幼 ― 吃音と発音の誤りを主訴に来室した年少男子への発語指導 ―

①楽な発語の状態　③構音指導での発語指導
②『平行同時音読』と『共調同時音読』の違い　④指導終了の状態

● 『共調発語指導の基本原理や基本的な指導方法』

St24 「非流暢性に与える方法での分類」及び「共調発語指導の適用領域による分類」

テーマ：「声を合せる練習」から『非流暢性に影響を与える指導技法』へ

St29 ― 共調発語指導法での非流暢性に影響を与える指導技法の紹介 ―

St31b 『共調発語指導』の理解 ー平行同時音読と共調同時音読ー

11時頃30頃 ～ 12時頃

■ 吃音指導講座：課題 ＝ 2022≪後期≫講座の確認

21課題：茂君の「ジャックと豆の木」の音読での楽な発語の状況は？

ご注意：2022講座で経験された方は、再度、答を見ながらでも自主実習を！

昼食・休憩	１２時 ～ １３時頃

13時頃 ～ 13時30分頃

■ 「指導対象者の声」に「指導者の声」を合わせる実技研修

■ まずは、実際の実技研修を見てみましょう**≪オリエンテーション≫**

St16 第２段階の研修＝子どもの声に指導者が声を合わせる実技　新01/02

St17 第２段階の研修＝子どもの声に指導者が声を合わせる実技　新02/02

13時30分頃 ～ 17時30分頃〔途中２回、１回20分程度の休憩〕

■ さぁ、実技です。グループ付のアドバイザーが進行します。

● １グループ４～５名に分かれます　● １グループ毎に、アドバイザーが付きます

小学４年女児さと子さんへの発語指導：約45分間の指導の中での変容

時間に余裕があれば !!　小学1年男子いさむ君への普段の会話での発語指導

夕食・休憩	１７時30分頃 ～ １８時30分頃

18時30分頃 ～ 20時30分頃

○ ことばを使ったゲームを通しての発語指導を体験してみよう！

【 絵カード合わせゲーム、お話作りゲーム等、様々な指導の紹介と実施上の留意事項の解説 】

① ２グループに分かれます

② ５～６種類のゲームについて、指導者役・対象者役を交代しながら実習します

１日目終了	20時30分頃

9月15日（日）

開 場	９時３０分

10時 ～ 12時頃

■ 「朝の会の進行を自力でしたい！」と来室した中学２年生次元君(仮名)への指導

☆ 視聴のポイント

- 吃音頻度検査での様子
- 音読素材の作成の方法
- 共調音読指導の流れ：幾つかの指導テクニック
- 「朝の会の進行」の行動リハーサル

※ 次元君についての基本的な情報は、右のQRコードからの動画をご視聴ください

「朝の会の進行を自力でしたい！」と来室した中学２年生次元君(仮名)への指導〔Before-After〕

昼食・休憩	１２時 ～ １３時頃

13時頃 ～ 15時30分頃

■ 「朝の会の進行を自力でしたい！」と来室した中学２年生次元君(仮名)への指導〔続き〕

15時30分頃 ～ 16時30分頃

○ 視聴希望のあった指導場面の視聴と解説

終 了	16時30分 （お願い：後片付けのお手伝いを！）	Time-remits：17時00分

2024 吃音指導講座　★ 課 題

茂君の「ジャックと豆の木」の音読での楽な発語の状況は？

【課題記入用紙】

共調発語指導で目標とする発語の状態は、音読であれフリートークやプレゼンなどの発話であれ、楽な発声から得られる楽な発語です。

例えば、強いブロックで、奇異な随伴動作の伴う吃症状が認められる場合であっても、「さかな」を発語するとき、語頭の「サ」に出現した吃症状が、「カ」にも「ナ」にも出現することはとても稀です。また、語頭に出現しないで、「カ」や「ナ」に出現することも、とても稀です。

特に、小・中学生の場合、語頭や文頭、つまり、「サ」に吃症状が出現したとしても、次の「カ」や「ナ」の発語は、喉の力みの無い楽な発語になっていることの方が多く観察されます。

ですから、共調発語指導では、発語指導上、「非流暢性の状態」よりも『楽な発語の状態』の把握をポイントに発語を観察します。

そして、その『楽な発語の状態』を維持した状態で、音読やプレゼンの練習を行います。

実際の指導での『共調発語指導の基本』は、以下の２点です。

① 『音読指導の視点になる**楽な発語**での音読』になっている“単語や句”を**即座に聞き分け、把握する**ことができる

② 把握した『楽な発語』が持続するように、**指導対象者の声に**『指導者自身の声を合わせる』ことができる

ですから、共調発語指導では、『側音化構音に対する指導で、構音時の“顎の偏位や舌の膨らみ”等々に対する指導を行わない（関心を持たない）方が、楽しく効果的に指導ができる』のと同様に“どのような非流暢性か、どのような随伴動作が生起するのか”に関心を持つ必要はないのです。

１日だけの講座で、習熟することは困難です。ですから今回は、≪前期≫講座に参加された方も再度体験をしていただければと考えています。

『共調音読指導』の参考に、下記の指導をYouTubeや相談室ＨＰでご覧下さい。

◎ 吃症状に対する共調音読指導の『即効的な効果』：小学３年生由加さんの場合

☆ 共調音読指導の紹介：小学３年生由加さんの場合【本編】

◎ 吃症状に対する共調音読指導の『即効的な効果』：大学４年生小梢さんの場合

☆ 共調音読指導の紹介：大学４年生小梢さんの場合【本編】

下記の指導事例の児童は、『本講座課題』のモデルになった小学５年生の茂君です。

St23 共調発語指導の紹介：小学５年生茂君の場合【本編】

St24 吃症状に対する共調音読指導の『即効的な効果』：小学５年生茂君の場合

【課題記入用紙】

＜ 課 題 ＞

共調発語指導では、指導上、「非流暢性の状態」よりも『楽な発語の状態』を把握することをポイントに発語（音読）の状態を観察します。以下の音読の結果は、茂君の吃音音読検査「ジャックと豆の木」の連続５回音読での５回目の音読です。

▬▬ は、比較的楽な発語で音読をしている箇所を示しています。その中でも、茂君の音読指導上『特に、音読指導の視点になる 楽な発語での音読』の状態と考えられる単語や句を１６箇所 選んで、好きな 印 をつけて下さい。

A むかし 01 ある ところ に 02 ジャック と いう 男 の こ が い 03 まし た。

B ジャック 04 の うち は お とう 05 さん が なく びんぼう 06 でし た 07 ので

C ジャック は がっこう へ 行く こと も 08 でき ませ ん でし た。

D とうとう 09 うち に は パン も 10 なく なり 牛 が 11 いっ 12 ぴき いる

E 13 だけ に 14 なっ て しまっ た ので ある とき 15 お かあさん が

F 16 ジャック に 17 いい まし た。「まち へ 18 行っ て この 牛 を

G 19 売っ て おいで そして その お かね で パン や おまえ の

H くつ や ズボン を 20 買い 21 ましょ う。」 ジャック が 牛 を 22 つれ て

I げんき よく 23 まち を あるい て いる 24 と ずっと 25 むこう の ほう

J から ひとり の おじ 26 さん が フラフラ と 27 やって 28 きました。

K「29 どうだ ね ぼうや その 牛 と この 30 豆 を 31 とりかえ ない か ね。」と

L おじさん が 32 いい ました。みる と それ は たいへん きれいな 豆

M 33 でし た ので ジャック は 34 むちゅう で とりかえ て 35 しまい 36 まし た。

親子ことばの相談室での体験談

― 吃音との歩み そして これから ―

磯野 直春（仮名）

〔直春君のこと〕

「先生、磯野、直春です。覚えていますか？　中学生の時、吃音症で指導を受けていました。…」のメッセージが留守電に残されていました。

その２週間後、９年ぶりに、凛々しく成長した直春君と、時も忘れ３時間もの間、吃音の事、そして、趣味と就活の事も語り合いました。

吃音で特に辛かった中学時代の出来事、楽な発語を得てからの自身の心の成長と吃音への向き合い方、そして、これから就く仕事（趣味？）への期待と情熱を熱く語ってくれました。

この度、この語らいの中から、特に「楽に声が出せる」ようになってからの吃音に対する自身の価値観や対応の変化を中心にまとめてくれることをお願いしたところ、その翌日に届いたのが、この体験談なのです。

修論そして就活の大変な時期に、早速、吃音で悩む人々の心に響く体験談を届けて貰い、とても感激すると共に感謝しています。

私は現在大学院二年生で、学業の面では研究に励んだり，研究内容を日本語や英語でプレゼンをしたり、趣味の面では車やバイクを整備したり，直した愛車でドライブしたりと充実した日々を過ごしています。そんな充実した日々を過ごせているのも中学一年生から三年生までお世話になった親子ことばの相談室（＝相談室）のおかげだと実感しています。

私は、東日本大震災の影響で山形の小学校に転校してきて、そこから中学三年生まで山形で過ごしました。

相談室に通うことになった理由は中学生になり、皆のように話すことができない事実をより気にするようになったからでした。具体的により吃音を意識するようになった出来事は、発表でどもったためクラスの人から笑われたり、自分ではいい発表だと思っていたのにそれがうまく話せず、伝わらないことが悔しかったりしたことです。また担任の先生に宿題の質問をしに尋ねたときに「先生、ここがわからないのですが教えてもらえませ

んか」と言いたかったのですが「ここがわからないのですが」の「こ」が出ず、ただ先生と呼んだだけで20か30秒ほど固まってしまい、そこで先生が「よく聞きたいことを整理してからもう一度きなさい」と言われたこともありました。その時は聞きたいことも聞けない、言葉が出ないことを理解してもらえていないことがつらかったのを覚えています。

それらのような経験から不便なく話せるようになりたいと日に日に思うようになり、母に相談しました。そしてそれから母が見つけてくれた相談室に定期的に通うようになりました。そこでは梅村先生が楽な声の出し方を教えてくださり、今まで意識したことなかった方法で楽に声が出せたので自分でも信じられない気持ちになったのを覚えています。何度も通ううちに、まずは母との会話で楽に声を出せるようになり、それから学校でも吃音のようなものが完璧に出なくなったわけではありませんが、確実に以前より楽に声を出せ、長時間ブロックするようなことは格段に少なくなったのを覚えています。

中学二年生になり、クラスを率いることに挑戦したいと思ったので、学級委員長になりました。学級委員長はクラス全員の前で発言することが多く、授業前のあいさつなど仕事の一つにありましたが特に問題なくできていました。クラスメートの前でしか発言する機会がないと思って学級委員長になったわけでしたが、ある時担任から、学期はじめに全校生徒の前で「今学期の目標」を発表しないかと提案されました。運が良かったのか悪かったのか分らないのですが（今では良かったと思っています)、偶々私のクラスの学級委員長がその発表の担当に割り当てられていました。学級委員長は男女二人がなるのでもう一人の女子もいたのですが、その子は学年の学級委員長のリーダーだったので、必然的に私が引き受けることになったのです。その時は担任の先生に吃音だから難しいと相談をしましたが、先生は「大丈夫、君ならできる」と言っていたのを覚えています。今ではその対応にとても感謝していますが、当時は先生が吃音を理解していないからそんなこと言えるのだろうと先生の対応に不満を感じていました。

発表することが決定したので、梅村先生も含め、ことばの教室の先生方の前で本番を想定した練習をしました。そこで楽な声で発表練習をすることで、段々と「楽に発表できている自分」をイメージすることができました。そして不安が少しずつなくなっていったのを覚えています。とはいうもの、全校生徒450人の前で発表などしたことがなかったので発表当日はかなり緊張しました。全校生徒、先生方が私の一声目を聞くために耳を澄

ませているので、体育館が物凄くシンとしていたのをいまだにはっきりと覚えています。ただ、「俺には教えていただいた楽な発声の仕方がある」と自信があったので、練習通り発音することで、特に目立つような吃音は出ず、発表することが出来ました。そしてその経験から、人数が 400 人以上であろうとも、30 人であろうとも身につけた発声方法であれば話せると大きな自信になりました。後から聞いた話だったのですが、実は担任の先生が母に「彼は将来人前で話すような人になるので、全校生徒の前で発表させてもいいでしょうか」と相談してくださっていたようで、それを聞いたときは私のことを考えていてくれたのだなと嬉しくなりました。

中学三年生になって、自主的にあらゆる行事でリーダーになり、学年の前で話したり、全校生徒の前で話したりとこれまで以上に人前で話すことを自分から選んでいきました。

話が変わりますが、同じ部活だった友達も相談室に通い、吃音が改善していました。彼は先生、友達とも話せなく、相槌でコミュニケーションをとる人でした。だから周りの友達は、彼を「話をしない人」と見ていました。

たまたま母同士仲が良かったので、私の母が彼の母に相談室を紹介し、彼も通うようになりました。相談室に通ってからは、話せるようになり、周りの友達からも他人と思われるほど彼が変わっていったのを覚えています。部活のメンバーでさえ彼の声を今まで一度も聞いたことがない人が多かったので、みんな彼が話せるのをみて驚き、そして彼によく話しかけるようになっていきました。私はそれをみて、自分のことのように嬉しくなったのを覚えています。理由は私自身も吃音のつらさを知っていたので、それを乗り越えて話せるようになって嬉しいだろうなという共感の気持ちと、吃音が改善することで本人自身が変わり、そして周りの人などの環境も大きく変わることに希望のような嬉しさを感じたからだと思います。

今現在、少なくなったものの相変わらず吃音を意識して生活をしていますが、吃音のせいでやりたいことを諦めたり、人間関係がうまく構築できなかったりなどの支障はなく生活をおくれています。

むしろ今振り返れば、完全に個人的な意見ですが、吃音という障害を通して学んだことがプラスに活きていると思います。

具体的には人の話を真摯に聞くようになりました。私がブロックで言葉

が全くでなかったときに最後まで聞いてほしいと思っていた経験からきていると思います。

今現在、塾で塾講師としてアルバイトをしているのですが、生徒のどんな些細な悩み、相談でも雑に聞くのではなく真剣に聞いています。ですので生徒も心を開いてくれたり、学校のことなどを彼らから話してくれたりします。生徒から絶大な信頼をされていると感じますし、自分で言うのもなんですが、私はとても人気な先生だと個人的に思っております。(笑)

他にもプラスになったと感じる点を挙げると、話す前に頭の中で整理して話すので、表現力、説得力や鋭い洞察力を持った発言が出来ている点、障害を乗り越えてあらゆることに挑戦し、結果がでているという事実が自分へ大きな自信をもたらしている点、そしてそれらを総合して自分という人格が形成された点など沢山あると思います。

先ほど述べた通り、これは完全に私個人が感じた吃音がもたらしたプラスの点なので、他の方には全く当てはまらないこともあると思いますが、吃音を持つ私が正直に感じた点であることを考慮していただければ幸いです。

今でも話すときに梅村先生から教えていただいたことを意識したり、家で音読をして楽な声の出し方を練習したりしています。また、「吃音ノート」という自分専用の吃音改善ノートを書いております。そこでは自分なりに楽な声の出し方を見つけたら忘れないように書いたり、なにか発表やプレゼンなど話すことに関して嬉しいことがあれば自分の自信をつけるためにその出来事を書いたりしています。そうすることで吃音のことで落ち込んだらそのノートをみて自信を持返したり、忘れていた楽な声の出し方を思い出したりしています。

繰り返しになりますが、充実した日々を過ごせているのも相談室のおかげだと思っています。中学生という多感な時期に話すことへの苦手意識がなくなったことで、その時しかできない沢山の経験を諦めずに済み、今の自分がいるのだとこの文章を書きながらより実感しています。

● 参加申込締切：９月６日(金)

ＦＡＸ番号 ０２３-６４６-６４９２

2024 吃音指導講座

整理番号（　　／25）

参加申し込みの際は、整理の都合上、この「参加申込書」をこのままご使用下さい
参加者お一人につき１枚でお申込み下さい。また、送付書はつけずに送信して下さい

● 構音指導講座・吃音指導講座 それぞれに お申し込み下さい

● 太枠内の全てについて、“ 楷 書 ”でご記入下さい。

◎ 過去の講座への参加状況につきまして、参加された講座に〇印をつけて下さい

参加の状況	2022≪前≫講座（構音・吃音）	2022≪後≫講座（構音・吃音）	2023講座（構音・吃音）

フリガナ お名前	必須	必須 言語関係の担当：通算　　年目
フリガナ 所属所名	必須	
所属所電話番号	※電話番号	※FAX番号
	※ ご自分の携帯番号	
	※ 中止の連絡等、緊急時の連絡先にしますので **必ず** ご記入ください。 所属所への連絡だけで、間違いなく連絡がつく場合は、携帯番号の記載は必要ありません。	

▼ 緊急連絡の際必要ですので、【相談室携帯080-3337-7957・固定023-646-6491】の登録をお願い致します

所属所住所	〒　　－ 都道府県
講座を知ったきっかけは？	（　）ハガキでの案内　（　）YouTubeを見ていて　（　）知人からの紹介 （　）相談室のHP　（　）その他：**支障のない程度に‥**

上記以外の講座の内容に対するご希望・ご質問をご記入下さい